

第26回全国健康福祉祭こうち大会

レポート

ねんりんピックよさこい高知2013

全国から1万人近い選手が集まり、宮城県からは強豪ぞろいの127人が参加。世代や地域を超えて交流の絆を強めた大会の様子を紹介します。



▲手作りの横断幕を持った高知の小学生の先導で、県選手団が入場行進した
▶入場行進前には、高知の小学生が県選手団をもてなした



▲バウンドテニスは団体戦でリーグ優勝に輝いた
▶ねんりんピックの意義を再確認した閉会式



いざ黒潮・高知へ

県選手団は、総合開会式および卓球・テニス・剣道・将棋など20種目の競技に参加するため、10月25日に仙台空港から高知へ出発しました。

総合開会式は高知県立春野総合運動公園陸上競技場で開催。常陸宮同妃両殿下のご臨席を賜りながらの式典、それに続くアトラクションでは、高知の歴史、文化、自然パワーを坂本龍馬が各シーンをつなぐストーリーテラーとして登場し、とても心に残る式でした。

「かわいいうち援団！ねんりん・くろしおキッズ」

開会式待機場の補助陸上競技場では、高知市立横浜新町小学校5

年生の10人が「フアイト宮城 最後まであきらめないで」の応援横断幕を掲げて出迎えてくれました。参加都道府県の選手を専属に応援する「ねんりん・くろしおキッズ」として、事前に宮城県の自然や文化、歴史などを学習したよつで、孫世代からの応援は選手たちの大きな励みになりました。お礼として、三浦俊一県選手団団長が児童の代

表にプレゼントを手渡しました。**上位入賞続出**

競技関係は27日から高知市内を中心に各市町村で開催されました。児童の応援をパワーに変えた県チームは白熱したゲームを展開し、バウンドテニスや健康マーじゃん、水泳、サッカーなどの複数の種目で上位入賞を果たしました。特にバウンドテニスや健康マーじゃんでは優勝を果たしました。さらに、選手たちはゲームを終えると対戦相手と積極的に労をねぎらい、絆を強めていました。

感動の総合閉会式 26年度は栃木大会へ

29日は高知県立県民文化ホールで総合閉会式が開催されました。ふれあい交流から生まれた思い出や、ねんりんピックの意義をあらためて確認するにふさわしい式典でした。

来年の開催地は栃木県です。大会旗が高知県知事から栃木県知事に手渡され、触れ合いの輪が引き継がれました。栃木大会においても、多くの人々との触れ合いにより、世代を超えた交流が芽生えることを期待します。

Interview

宮城県選手団団長

三浦俊一さん

(県社会福祉協議会会長)

高知県民の温かいもてなしに感謝

高知県へ向け出発する予定の10月25日は、日本に接近していた台風27号の影響が大変心配されました。しかし、思いのほか天候は荒れず飛行機も飛び、無事に会場入りすることができました。

昨年ホスト県として全国の方をお迎えした私どもとしては、主催県の気苦労もひとしおと察しましたが、翌26日の総合開会式はそんな杞憂（きゆう）も吹き飛ばす台風一過の晴天でした。その後も大会期間中はずっと天気に恵まれました。

高知では多くの心温まるもてなしを受けました。

とりわけ印象的だったのが、開会式の入場行進の前に、高知の小学生が手作りの横断幕や地元の魅力紹介などで、各県の選手団をもてなしてくれたことです。宮城県に用意してくれたのは「フアイト宮城 最後まであきらめないで」という応援の言葉が書かれた横断幕。入場行進も小学生が先頭に立って掲げながら先導してくれました。今回は県選手団として127人の選手・監督が参加。高知県内各

地で20種目のスポーツ交流大会と4種目の文化交流大会が開かれ、バウンドテニスや健康マーじゃんが見事優勝、水泳が準優勝を飾りました。美術展では書、洋画、写真の部門で4人の方が入賞しました。昨年の宮城大会に比べれば参加選手が少なく、入賞者も減りましたが、皆さんのお力を出し切り、頑張ってくれました。

こうしてスポーツや文化を通じ、交流を楽しみながら、はつらつとした毎日を送る高齢者が増えることを願います。県としてもねんりんピックの魅力を広げお伝えし、よりよい長寿社会づくりに努めていきます。